



外国文献紹介

縊死から生還した昏睡状態の患者の早期の拡散強調像と予後予測について

Choi DW et al : Early diffusion-weighted imaging and outcome prediction of comatose survivors after suicidal hanging. Am J Emerg Med 37 : 5-11, 2019

筆者らは、縊死から生還した昏睡状態の患者に対し、首吊り後3時間以内に脳の拡散強調像（DWI）を撮影して、前向き調査を行った。DWIを撮影後、ADC値やDWI上異常な信号強度を示す部位を分析した。また、脳を10領域に分けて各部位の重症度をDWIスコアとして評価した。生還者を、心停止をきたした群（CA群）10例と心停止をきたさなかった群（non-CA群）4例に分けて検討した。CA群の神経学的予後が悪かったのに対して、non-CA群の80%の予後は良好だった。CA群はnon-CA群と比べて、皮質や神経核のADC値が低下し、DWIスコアも高値を示した。これはびまん性の無酸素状態による脳損傷が原因と思われた。心停止の有無が縊死からの生還者の予後を予測するうえで最も重要と考えられる。首吊り後早期のDWIにおける皮質や神経核の異常な高信号を示す箇所が存在やADC値の低下は不幸な転帰と高い相関を示した。そして、早期のDWIは予後を予測するうえで有用と思われると述べている。

瀬戸一彦